

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374100523		
法人名	特定非営利活動法人東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛		
事業所名	特定非営利活動法人東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛		
所在地	愛知県東海市養父町苅宿31番地の1		
自己評価作成日	2010年9月15日	評価結果市町村受理日	平成22年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2374100523&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室		
訪問調査日	平成22年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 地域との交流＝公民館祭り・敬老会・バザー避難訓練等での交流 自分らしさが求められる生活環境づくりに支援＝家庭的な環境と雰囲気の中で自分の居場所がある生活 少人数の入所者が家庭的な環境を雰囲気の中で、自分の居場所や存在感を感じながら生活出来る介護を目指して支援させていただいている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、訪問介護、通所介護をはじめとする在宅介護サービス事業所と併設しており、ホームも含めて多様なサービスを展開している。法人代表者が、地域とのつながりや地域への貢献に熱心なこともあり、ホームにはいろいろなボランティアの来訪があり、ホームでは、和太鼓、三味線、絵手紙、オカリナ、習字、ハーモニカ大正琴等、多彩な催しが行われ、利用者の心を癒してくれている。さらに、身体障害者の受け入れも行い、短時間ではあるが、洗濯、掃除、利用者とのゲーム等、利用者の生活支援して頂いている。また、ホーム2階には高齢者専用の独立した住宅があり、多様なサービスを展開されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と職員詰所に携示しており、軸の申し送り時、毎日唱和している実践につながるよう気持ちを引き締めている。	「ここはあなたのお家ですよ」の気持ちを込め、その人の身になって高い質を目指し、毎朝申し送り時に唱和し確認、日々のケアにつなげている。玄関、事務所の目のつくところに貼ってあり理念に沿った支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	勤労会への参加保育園児との交流ボランティアによる訪問・バザーの開催で地域との交流を行っている。最近ウォーキング中の方が立ち寄り、お薬を飲んでいかれるようになった。	神社の祭礼、公民館での催し、老人会に参加している。保育園との交流会は2か月に一度は行っている。交流会では歌や踊り、肩たたきなどして楽しく過ごし、お返しに手作りのペンダントなどをプレゼントしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所者家族とのふれあい知人の訪問等で身近なところから理解の輪を広げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症への理解・問題点の提示生活状況の報告を行っている参加者との意見交換されたことをミーティングで話し合いサービスにつなげている10月には地域の防災訓練参加予定。	管理者と職員が、地域の防災訓練に参加して、AED、包帯の巻き方、バケツリレー、消火器の使用方法を行った。避難訓練について、会議で地域の方の参加の提案があり、実現に向けた取り組みが計画されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な交流はなされていないが、ホーム内の問題発生や相談ごとがあると協力と提示を仰いでいる。	広域連合、社会福祉課には月に何度も足を運んでいる。社協主催の福祉祭りには参画し、リフト車の体験、介護相談に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにて研修を行い、理解しケアに当たっている。不必要な拘束は行っていない。家族との話し合い了解のもと安全をはかっている。	徘徊や危険防止、安全のため、止むを得ない時のみ家族の同意を得て、一時的に拘束する事があるが、職員は会議で、拘束はしない研修を行い、身体拘束について理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力によるものばかりではなく、言葉・介護放棄等・介護者は常に自分の感情のコントロールに努め、利用者には不快な思いをさせないようにしている。上記の拘束委員会を設けたことで、より以上に、理解と防止に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ、この制度の研修を受けたのはわずかであり、全職員の研修の場を設けていない。今後の研修課題であり、理解を深めて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については施設長よりの説明を行っている。またサービスについては計画時に細かくに生活状況を報告している。家族との連絡ノートや意見箱の設置も実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会にて施設長より説明を行っている。また訪問時に細かくに生活状況を報告している。家族との連絡ノートや意見箱の設置も実施している。	家族会や面会時の意見を運営推進会議でとりあげている。家族から出された意見として、水分補給に注意してほしいとのことで、部屋に水筒を置くようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時に必要に応じて、職員の意見や要望を交換している。8月に意見箱の設置したことで活用を増したい。	職員の意見については、会議の中でも聞いている。職員の提案で、夕方職員の数が手薄になる時間帯に、併設の職員の応援を頼むなど、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力が給与に反映できるよう、資格手当、管理者手当、年1回表彰制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講の制度を利用し、個々の質を高めている居室担当制の実施と委員会設立により、自覚と責任を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック毎の勉強会や交流会に参加し、他事業所の取り組みや活動内容を参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所して半年位までは慣じみの関係がない為、不安になりがちです。基本情報や生活歴を考慮しながら、本人と向き合う時間を多くもち信頼関係を確保し、安心して過ごせる雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大切な家族を預けることに対する不安は計り知れないものがあると思います。その気持ちを私達介護者は理解し、細かめな連絡を図り、家族との連携を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が、なぜここに居るのか納得されていない方も居ます。本人の想いに耳を傾け不安をとりのぞき何がやりたいのか何が必要なのか見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「おしつけや、やってあげる」という思いをもたず相手の目線に立って、共に笑い、悲しみ一緒に生活する関係でケアに当たっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を図ることで、共に支え合う関係を保っている。何でも気軽に話し合える関係作りをめざしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問や、電話の受け付け、便りの交換、美容院やかかりつけ医院での受診等継続している。また、施設での外出も実施している。	利用者の中で、昔の同僚と偶然の出会いで、毎日のように訪問され、話をされていくもある。家族が馴染みの美容室に同行したり、食事に出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度に差があり、むずかしい面もあるが、入所者同志が声をかけ合う、やさしい一面もみられる。入浴順が片寄ることなく配慮したり、席替を行って孤立や対立を防ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された方には、お見舞いに行くこともあったが、個々の状況により疎遠になりがちです。現在は入所が長くつづいており安定されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどう思っているのか、どうしたいのか常に本人の気持ちを聴くようにして、集団ケアと個別ケアを混じえながらケアに当たっている。	利用者それぞれの意向を把握し、出来ることを支援している。食べたいもの、行きたい場所など、外出時の計画に取り入れ、コーヒESHOP、回転すし、近くの三八市などに出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや本人との日常会話の中から、また家族との交流を混ぜて好きなことや、楽しみの話題の投げかけを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中、常に観察、状態の把握に努めている。いつもと違ってないか、まだ自分でやれるところは何か、介護者が見落とされないようにし、毎日ミーティングでも検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング、日常的な会話の中から出てくる問題を理解し、現在何が一番必要なのかを考えている。本人が生きがい(必要とされている想い)を実感出来るケア作りをめざしている。	ケア記録から、日頃やっていることを計画につなげるよう、家族とも話し合い、日々の生活の中でできたことが意欲につながる計画を作成している。縫いもの・編み物をレクの中に取り入れるなど、必要なことをプランに取り入れている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	居室担当制を実践し、個々の目標を本人と共に達成出来るよう、職員間で共有、ミーティングケアカンファを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの状況が日々変化しており問題点が多様化している。その為の解決として柔軟なサービスは必要である通院介助、美容院への送迎等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会の一員であることを、ボランティアの訪問や散歩、外出する事で、実感し楽しみにつなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の受診を受けたり、緊急時のかかりつけ医を定め、適切な対応がとれるよう家族の了解のもと支援している。	ホームとの提携医から定期的な健診あり、緊急時の対応にも受診できるように支援している。入居以前からのかかりつけ医の受診も可能で、家族又は職員が同行し、継続受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と様子が違った場合(バイタルチェック行動)が認められた時はNsに報告し指示を受けたり、受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は家族と一緒に医師より、治療、経過を伺い、退院後の指導も受け、本人、家族が安心して退院出来るよう連絡を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している利用者もあり、ターミナルケアを望まれている家族もいる家族との具体的な話し合いが必要であり、今後の課題である医療機関との連携を図りながら支援したい。	ターミナルの重要性は目の前の問題ではあるが、夜間の訪問医がいないこともあり条件が整うまで、安易にはできない。ホームとしては出来る限りの支援をしたいが、今後の検討課題である。	終末は避けられない事であるので、職員家族と話し合いを重ね、一人ひとりの希望に添うことができるように、ホームとしてどこまで出来るか方針の検討を続けられたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時の勉強会や、申し送り時に注意点、状態の観察、対応の把握に努めている。研修においても(呼吸法、AED)受けているが、さらなる職員のレベルアップが必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最も必要な対応で、夜間の避難訓練を想定し、年2回行なっている。地域の協力が課題である。訓練には消防士の参加を受け助言をもらっている。	避難訓練には、消防署員の参加で指導助言を仰いだ。推進会議の中で、訓練への参加の提案があり、地域の方との協力体制作り、多くの方との協力の輪を広げていくような体制作りが進みつつある。	地域の協力は今後の課題でもあるが、運営推進会議の場を活用しながら、地域協力を働きかける事で、相互の協力関係を築いていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人の人間として尊厳は大切なことは職員全員が把握している。必要に応じて声かけのタイミングや場所を配慮しながら本人の誇りを損ねないようにしている。	トイレ時の声掛けは、ゼスチャーで知らせたり、散歩にそこまで行きましょう、少しお話ししましょうとタイミング良く対応している。いつも否定的な言葉は使わないよう、言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者からの一方的な支援ではなくあくまで、本人の気持ちを重視し、耳を傾けるようにしている。自己決定がなかなかむずかしい状態になってきている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	笑顔の出るお世話をモットーに、利用者の意志を優先する支援を心がけている。無理には参加する必要なく、自由参加にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔(入浴、衣類の洗濯)を保ち、季節による変化、外出時の身だしなみ、定期的な散髪等、必要に応じて支援している生活の中にメリハリが出来るよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活の中の楽しみであり、食べられない物は代替を行なって対応している。利用者が出来る範囲の中で、一緒に行なっている。生き生きとした表情が感じられることもある。食事中は世話話、おしゃべりをまじえながら食している。	昼食は併設のデイサービスで調理した食事である。メニューはカロリー計算された食材で、朝食、夕食は職員が作っている。調理、茶わん洗い、拭き上げ等、出来る人がやれることを職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された物を調理し、利用者に応じた食事形態をとっている(ミキサーきざみ)食事、水分の摂取量もきちんと記録をとって、健康状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には自己にて行ない、見守り、介助が必要な方には各自に合った方法で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の方でもリハバンに替え、トイレでの排泄を行なっている。定期的な声かけ誘導を行なっているが、現状は自立にむけた支援が難しくなっている方もいる。	各人それぞれの排泄パターンにより、トイレ誘導している。全介助の利用者の方も、起床時に紙パンツにして、昼間はトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、歩行運動、トイレでの声かけ腹圧による支援を行なっているが、最終的には下剤に頼らざるをえない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望どおりにはなかなかむずかしいが、本人の入浴の意志や排便のあった方は、その都度考慮して対応している。入浴はリラックスする一つの方法であり、介護者と一対一で会話出来る場所でもあるので、この時間を大切にしている。	隔日で午後に入浴している。順番は決めていないが、いつも一番にならないようバランスはとっている。安全性を重視し、全介助の方は職員2人で支援している。拒否される方も入浴後は気持ち良かったと喜びの声が出る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自己決定できる利用者は自由に行なっています。介助が必要な方には、その日の状態により、随時休息をとっていただいている。又、夜間だけ安眠剤服用の方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方を中心に行なっている。常に処方目を通し、理解している。必要時与棄し、作用には注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品づくりでは個人で行なうもの、協同で(手芸、ゲーム、合唱もやっている)作る楽しみや、おはぎ作り、おにぎり作り、また外食による楽しみも行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	なかなか一人ひとりの希望の受け入れはむずかしいが、可能な限り、散歩や外気浴を行なったり、家族や知人との外出もされている。鳥のエサやりが日課の楽しみとなっている方もいる。	天気の良い日には、日光浴に外へ出て、歌をうたったりしている。野鳥へエサをやるのを楽しみにしている方もいる。友人、家族と墓参りに行ったり、外食、喫茶店へ行く方もいる。車で弁当を持って、花見に行く事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができない方が多いので職員が行なっている。神社でのお賽銭やバザー等の限られた機会のみ個々に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて電話や手紙はいつでもやれるようになっています。絵手紙作成時には折々に出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	増設により広い空間のリビングで過ごせるようになっている。憩いの場であるリビングにはソファがありゆっくりとした環境となっている。四季折々の貼り絵があったり、外の景色も目に入るようになった。明るさ、室温等の調節を行ないながら過ごしていただいている。臭いにも気を付けている。	増設した事により、ゆとりを持った広い共有空間となった。日当たりも良くなり、車椅子が通る時等には、より安全になった。日当たりのよい場所では、ソファで気の合った人たちが話あったり、テレビを見たり出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで話したり、テレビの前に移動してゆっくり過ごせるようになっている。食事の席順は決まっているが、自由に行き来出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前から使用していた物を置くことで生活習慣の継続につなげている。仏壇も持参し、お茶、お花のお供えを日課としている方もいる。居室を清潔に保ち心地よく過ごせるよう支援している。	カレンダー、折り紙、塗り絵等、自身が作成した作品、写真、入居以前に使用していた品を持ち込み、住みやすい個性のある部屋作りがされている。季節の変わり目には、入れ替えを担当者が手伝うこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のない環境作り(家具の配置等)と場所がどこかわかるよう目印を活かして自立と職員の気配りで安全に送れるように努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 特定非営利活動法人
東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛

作成日: 平成 22年 11月 16日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	ターミナルケア実施の検討 提携医はいるが、夜間・昼とも訪問医いない。	当面の目標 ①ホーム内の看護師と救急車	市医師会と相談 (訪問医の紹介について)	5ヶ月
2	35	災害時避難方法の確立 夜間避難時の人手不足	夜間を想定した避難訓練の実施 ①2回／年以上 ②地域との連携	①自治会及び町内有志と連携 ②運営推進委員と連携	8ヶ月
3	2	地域四季の行事参加 町内保育園との交流	①車イスの人も参加可能にしたい。 ②保育園との野外交流	①車イス押す人の確保 ②ふれ愛農園、夏トマト狩り、秋いも掘り	10ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月